

## 展示「絵図からみる水害と治水の歴史—明治期・湖北—」

平成 26 年 1 月 28 日（火）～3 月 12 日（水）

滋賀県は水との関わりが深く、水害や治水の状況を描いた絵図が多く残されています。現長浜市虎姫地域は、高時川、姉川、田川の3本の川が合流するので昔から水害が多い地域です。特に田川は、水量の多い姉川と高時川にはさまれ逆流などの浸水被害が多く、江戸時代から、水門や田川カルバート（当時はコルベルトと表記）を設けたり直流工事を行うなど、治水事業に取り組んできた様子うかがえる絵図が残されています。

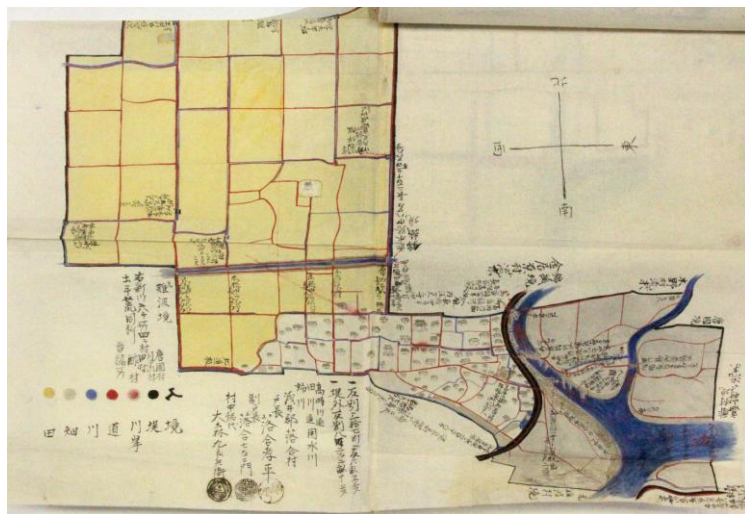
水は生活に必要な不可欠な要素であり、私たちは氾濫や干ばつと上手に付き合っていく必要があります。色鮮やかな絵図を味わいながら、歴史的な文書に描かれた当時の水害と治水の状況を紹介します。

【 】は滋賀県歴史的な文書の文書番号

「東浅井郡絵図（落合村）」〔55×52cm〕

明治 7 年（1874 年）

【明へ 68（15）】



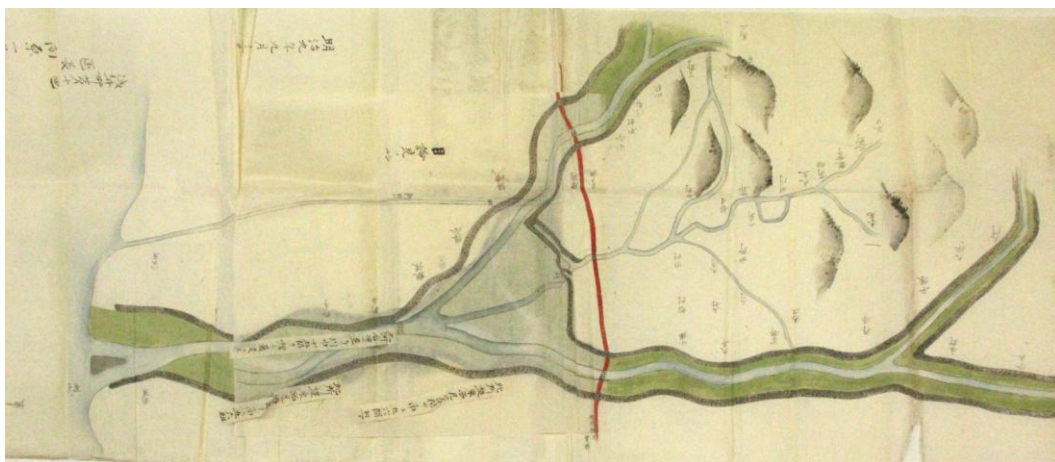
田川と高時川、姉川の3川が合流する落合村の絵図。黒い太線が堤防である。堤防の外側（川側）の土地は水害の被害を避けるため人家を建てず、畑（堤外畑）として活用されている。図には川幅、普請所の坎樋（小さな水門）、川除の杭の長さなどが細かく書き込まれている。

県が所蔵する各村の絵図は多くが明治 7 年に作成され、郡ごとに簿冊にまとめられて土木係が保有していた。絵図の中には「道川堤防絵図」（大路村）、「堤防橋梁道路普請所絵図」（八嶋村）と銘打ったものもあり、道路・川・堤防などの位置や幅を把握するために作成されたと考えられる。

「高時川付替目論見の図」〔112×38.6cm〕

明治9年（1876年）9月12日

【明ぬ 100（2）】



浅井郡第12区が作成。3本の川が合流する部分の川の流れを直流に変える計画を示した図である。直流にすることで、河川が増水した際にスムーズに水が湖まで流れるように、また旱魃の際にも途中で水が溜まらず川下まで水が供給されるようにするという意図があった。元々の川の上に「目論見之形」の図を重ね、計画をわかりやすく示している。「目論見之形」に付いた付箋には、変更後の川や堤の幅が書かれている。田川から枝分かれした部分は「新田川」と呼ばれ、江戸時代末期に水害対策として作られた川である。

「高時川付替・水害の絵図」〔78×40.5cm〕 ※複写

明治9年（1876年）5月

【明ぬ 100（1）】



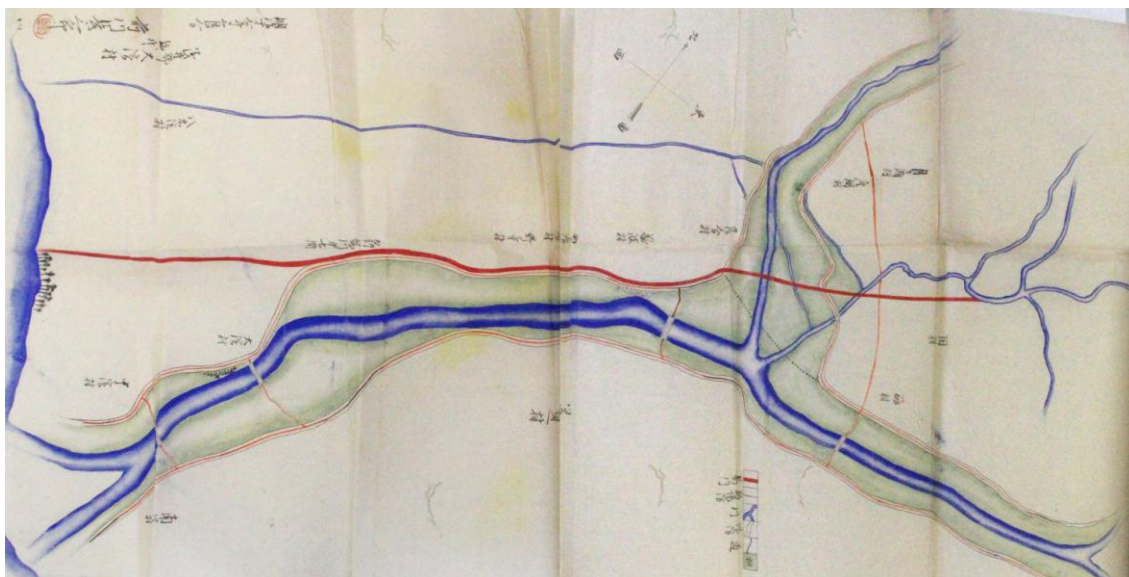
田川の水害の様子と、川の流れを変更する計画を表した図と考えられる。いつの水害かは不明だが、堤の外側、田川沿いに水が流入するさまが描かれる。赤い線が計画している流路。姉川と高時川は水量が多い天井川であり、年々流砂が堆積していた。一方、間に挟まれた田川は水量が少なく高度も低い。そのため洪水の際には姉川・高時川の水が田川に逆流して氾濫し、甚大な被害をもたらしていた。



「田川付替の絵図」〔95×40cm〕

明治 13 年（1880 年）3 月 3 日

【明ぬ 135（40）】

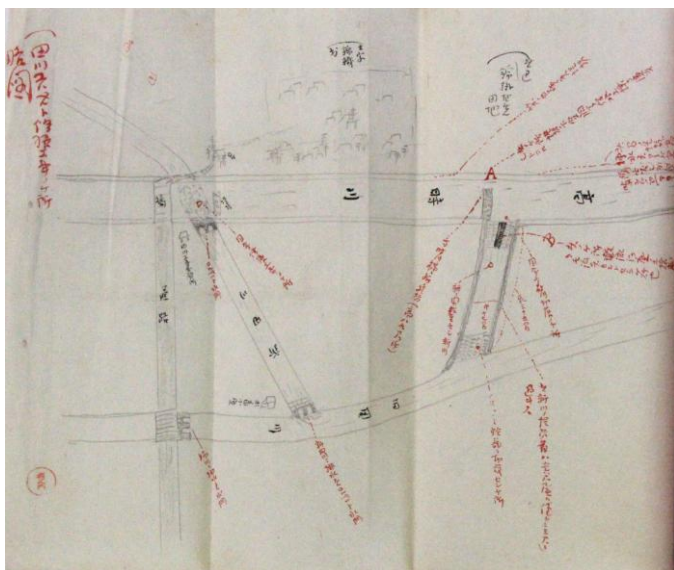


田川の流れを変え、新たな川を作ろうとする試みを示す絵図。大浜村より県令籠手田安定宛に提出された。朱色の線は道、中央を走る赤い線が新川の経路である。結局この策は取り入れられなかったが、当時各村から治水のための案が出されており、人々が水害を克服するために知恵を寄せ合った様子うかがえる。

「田川コルベルト修繕工事ノケ所略図」※複写〔31×25cm〕

明治 27 年（1894 年）

【明ぬ 139（73）】



※コルベルト…コルベルト（Culvert）は穹状伏樋あるいは暗渠とも言い、現在はカルバートと呼ばれる。地面をくりぬき水を通した地下水路のこと。

「<sup>しんたがわ</sup>新田川」のコルベルト（カルバート）を修繕する際に鉛筆で書かれた計画図である。コルベルトを修繕するためには、高時川の流水を一旦遮断する必要があった。そこで上流（図右側）を新たな川で繋ぎ、高時川の水を一旦田川に流すことにしたのである。簡略な図であるが、コルベルト・水門の形状や堤防の位置、新川の長さや幅などが細かく書き記されている。

「水門・埋樋の図」〔59×27.5cm〕

明治 27 年（1894 年）

【明ぬ 139（73）】



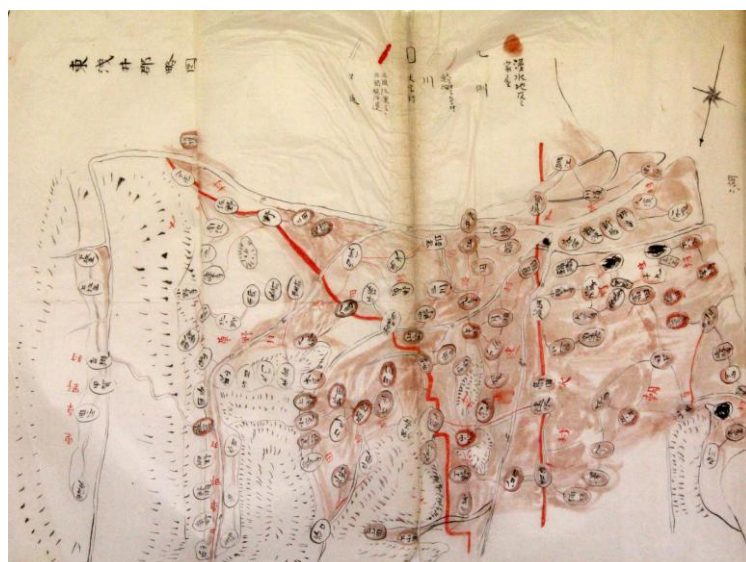
※埋樋は、うめひ、  
うめどい、うずみび  
など様々な読み方  
がある。

【明ぬ 139（73）】の Colbert 修繕と共に添付された図。田川が姉川・高時川と合流する所に水門がある。また、高時川・姉川の川底を通る埋樋によって水を流し、養水としていた。水害と共に旱魃にも対応するための工夫がみとれる。図は、川に高低差があるにも関わらず平面図に川の流れを表しているため、大変複雑になっている。

「明治 28 年水害被害図（東浅井郡）」〔56×26cm〕

明治 28 年（1895 年）8 月

【明は 5（75）】



明治 28 年には、湖北地方を大雨による水害が襲い、3 川の流域も広範囲で浸水被害に見舞われた。この絵図は、当時の被害状況を急ぎ伝えるために描かれたものである。付属の文書には、虎姫村長から東浅井郡長宛に「追々減水二至り候二付、本日（＝8 月 9 日）午後ヨリ水防二着手候」と届けがあり、さらに東浅井郡長から大越亭知事に報告された。



「明治 32 年水害被害状況の絵図」〔52×26.5cm〕

明治 32 年（1899 年）  
【明は 13 合本 1（25）】



明治 32 年（1899 年）9 月 7、8 日に滋賀県全域を襲った大雨の被害を示した絵図。この水害では高時川の堤防が数ヶ所決壊し、広範囲が浸水した。流域の村々の協力で治水工事が進められてきたが、それでも大雨の際には浸水被害が絶えなかった。

「高月川・黒田川見渡之汎図」〔222.5×92.5cm〕

寛政 6 年（1794 年）  
【明へ 76（1）】



江戸時代に作成された、姉川・高時川・田川流域の図。この時期にはまだ新田川はなく、田川は完全に姉川・高時川と合流していた。

「近江国水害地図（滋賀県全域）」〔135×101.5cm〕

【明心 59 合 2 (1)】



明治 18 年（1885 年）に滋賀県全域を襲った水害の被害状況を伝える地図。6 月 18 日から 7 月 7 日までの 20 日間大雨が降り続き、琵琶湖が増水し、琵琶湖の周囲の多くの村が浸水被害に遭った。